

令和6年度事業報告書

第24期

(自)令和6年4月1日

(至)令和7年3月31日

社会福祉法人 倫

東広島市黒瀬町丸山18-35

令和6年度事業報告書

I	法人本部	・・・1
II	令和6年度 黒瀬ありんこ(生活介護)事業報告	・・・2
III	令和6年度 ショートステイありんこ（日中一時支援）事業報告	・・・5
IV	令和6年度 就労サポートありんこ(就労継続支援B型)事業報告	・・・6
V	令和6年度 ホームありんこ（共同生活援助）事業報告	・・・10
VI	令和6年度 ありんこBジョブ（就労継続支援B型）事業報告	・・・11
VII	令和6年度 相談支援事業所ありんこ事業報告	・・・18
VIII	令和6年度 ありんこの家（共同生活援助）事業報告	・・・21
IX	令和6年度 ありんこの家（短期入所）事業報告	・・・23

I 令和6年度法人本部事業報告

① グループホームありんこの家について

令和6年4月に周辺整備も完了し、共同生活援助・短期入所が稼働開始した。入居者7名は4月中旬から下旬にかけて入居、またそれに従事する人員も確保、虐待・トラブル予防方法研修を実施しこの1年事故、苦情もなく順調な船出となった。

② コロナ感染対策について

コロナ感染について5類へ移行したものの令和6年度も各事業所ともコロナ感染に留意しつつの運営となった。今後も徹底した手洗い、うがい等の基礎的な予防策をはじめとして施設内の消毒作業を毎日励行するなど感染予防策を徹底した。

③ 合理的な法人運営について

これまでも不採算部門の合理化を図ってきたが、人件費の増大及び最低賃金の上昇、物価高騰が今後も予想されるため無駄を省き合理化を行った。今後も引き続き無駄な経費の削減を図る。

④ 職員の資質向上について

各人の担当部門の研修を受講、会議を開催しレベルの向上を図った。またサービス管理責任者及び相談支援員についてコースを選択、特化することにより専門的な人材を育成することとした。

受講した主な研修、及び開催した会議は以下の通り

- ・ 成年後見制度研修（全職員）・各事業所内での職員会議 ・虐待防止委員会の開催
- ・ 虐待防止研修 ・サービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者更新研修

⑤ 義務化となった虐待防止及び身体拘束等の適正化のさらなる推進について

虐待防止委員会の設置、虐待防止マニュアルの策定を行っているが、引き続いての全職員対象の研修を行い徹底した虐待防止意識の定着を図るとともに更なる意識の向上を図った。

⑥ ありんこ B ジョブの移転について

令和6年度年末に令和8年中頃を目途に現使用施設の明け渡しを求められた。

このことを勘案すると令和7年度中に移転完了しなければならず、必然的に移転準備が令和7年度の事業のうち大きな部分を占めることになる。

⑦ 施設整備について

職員用の駐車場を新たに整備し使用開始した。また本部前土地の購入に向けて地権者と話し合いを行い購入に向けての大きな前進があった。

以上のような施策等を通じ、支援者としての専門性の向上及びより良い職場環境を構築するために、人材の確保・育成・定着を重点課題として、安心・安全な施設、従業員が働きやすい職場作り等を行った。

Ⅱ 令和6年度 生活介護事業所 黒瀬ありんこ事業報告書

- 1 はじめに
- 2 利用者へのサービス
 - ・生活介護事業
 - ・誕生日会
 - ・保健衛生
 - ・消防訓練
 - ・会議
- 3 行事
 - ・企画行事
 - ・対外行事
- 4 地域活動
 - ・機関紙発行
 - ・施設見学
 - ・実習
 - ・体験学習受入
- 5 研修
- 6 感染症対策

1 はじめに

令和6年度も生活介護事業所 黒瀬ありんこでは、「共に楽しく過ごす」を合言葉とし、共に笑顔で、利用者が安心した1日を過ごせるように支援を行った。

施設内を明るく楽しく彩る等、各季節に応じた行事を考慮し実践する事で、利用者にも季節感を感じてもらえるよう心掛けた。作業と余暇のメリハリをつけ、利用者や職員が行事を一緒に作り上げることで、共に楽しめるものになったと感じている。

今年度も感染症対策として、マスク着用や手洗い等、利用者の特性上、苦手な方がいるものの、皆と共に感染拡大防止の為の活動をする事が定着し、除菌と衛生の保持・向上が出来た。

年3回の職員勉強会では利用者へより良いサービスを提供する為、個別支援計画を確認しながら支援の意識統一を行う。利用者のニーズに向き合いながら、利用者の出来ること（強み）を活かした目標にする事で、施設内での利用者の役割など「自分にしか出来ない事をやっている」という自信や喜びを味わってもらい、笑顔になれるような支援計画の作成に努めた。

サービス管理責任者による支援記録や申し送りノート・福祉台帳を有効に活用し、施設内で起きたことは些細なことは全て職員全員で共有し、職員間の「ほう・れん・そう」を強化し、職員全員が統一感を持ってより良い支援を行う事が出来た。

2 利用者へのサービス

(1) 生活介護事業

a) 介護

- ① 自己意欲を持てるような環境設備の強化
 - ・利用者の特性を尊重した上で、過ごしやすい場所、時間等の支援
- ② トイレ誘導の取り組み強化
 - ・クリアファイルの排泄時間の記入を基に排泄誘導を実施

b) 生産活動

- ・下請け作業 総収入 629,675 円
- ・作業前ミーティングと自己選択の確立（ホワイトボードの利用）
- ・利用者に応じた作業場所・作業内容・作業時間の見直し
- ・毎月5日工賃支払い
- ・工賃 1人当たり1ヶ月支給額平均 1,357 円

(2) 誕生日会

- ・毎月1回合同誕生日会を開催 ・誕生月に利用者と職員で買い物へ外出
- ・音楽療法の実施

(3) 保健衛生

- ・嘱託医 東広島記念病院 康成病院
- ・健康診断 職員 利用者 実施
- ・月1回の医師訪問による健康相談
- ・バイタルチェック 毎月第1火曜日に実施
- ・インフルエンザ予防接種（希望者のみ実施）
- ・体温調査票 毎日
- ・感染症対策で全員マスク着用の徹底

(4) 消防訓練2回実施

(5) 会議

- ・職員勉強会（生活介護）3回開催

3 行事

(1) 企画行事

- ・ありんこ交流祭 ・りんりん祭り ・クリスマス交流会 ・ありんこ運動会
- ・毎月、運動療法、読み聞かせ（なずな文庫）を実施

(2) 対外行事

- ・第32回 黒瀬町健康福祉祭り 10月27日 黒瀬生涯学習センター
- ・福祉ウォーク 11月13日 黒瀬高校

4 地域活動

(1) 機関紙発行

(2) 施設見学・実習・体験学習受入

① 施設見学・実習

・特別支援学校（黒瀬）の受入

② 実習受入

広島国際大学

5 研修

9月 令和6年度指定障害福祉サービス事業者等集団指導研修

10月12日 虐待防止研修（障がい者虐待の防止について）

12月 令和6年度広島県虐待防止・権利擁護研修

1月28日 東広島市地域生活支援システムに係る協議会

6 感染症対策

・年2回の委員会開催及び年2回研修・訓練の実施

Ⅲ 令和6年度 ショートステイありんこ事業報告書

1. 利用者へのサービス

- ・定員 6名
- ・月曜日から金曜日（祝日・黒瀬ありんこ指定の休日を除く） 9:00～17:00

月別延べ利用人数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
40	41	35	44	34	39	47	43	39	32	37	40	471

2. 食事の提供

- ・昼食希望者へ食事提供 400円

3. 送迎サービス

- ・送迎希望者へ送迎サービス

4. その他

- ・利用者と職員の間で信頼関係が構築されたこと、また職員間の連携も円滑であることにより、スムーズな運営、支援が行われている。

IV令和6年度 就労サポートありんこ（就労継続支援B型）事業報告

1. はじめに
2. 利用者へのサービス
 - (1) 就労継続支援 B 型事業
 - ① 生産活動
 - ② 作業内容
 - (2) 給食センターありんこ亭の実施業務
3. 防災
4. 保健衛生
5. 行事
6. 対外行事
7. 地域活動
 - (1) 機関紙発行
 - (2) 施設見学・実習受入
8. その他（会議・研修など）

1. はじめに

令和6年度、就労サポートありんこ（就労継続支援B型）は、定員20名のうち、利用者16名でスタートした。

個々の特性に応じた支援を心掛け、利用者一人一人が落ち着いて作業活動に取り組める様に、作業環境を整備し「働く」事に対する意欲を高める支援に努めた。

新規の利用者には、本人の希望や能力に応じた作業環境を提供し、本人のペースに合わせた活動が出来る様に支援を行った。

また、企画行事や利用者研修を行い、利用者の活動におけるモチベーションの維持、向上を図る事が出来た。

2. 利用者へのサービス

(1) 就労継続支援B型事業

① 生産活動

・下請け作業 収入 5,565,823 円

自主製品 収入 20,712 円

(ゆずちゃん)

・工賃支給額 4,018,020 円うちボーナス 155,000 円

・毎月5日工賃支払い

1人当たり1ヶ月支給額平均 23,580 円

② 作業内容

ア) トイレのゆずちゃん

自主製品作成

イ) 給食センターありんこ亭

盛り付け・洗浄

ウ) 外部委託業務

●社会福祉法人 東広島市社会福祉協議会

黒瀬保健福祉センター清掃業務（毎月隔週：月・水・金）

●下黒瀬住民自治協議会

広報誌等配布業務

エ) 下請け作業（全5社）

○株式会社 コーポレーションパールスター

- ・アカパッケン製作・靴下やサポーターの縫製下準備作業
- ・パッケージシール貼り作業
- 有限会社 カネイ
 - 盆灯籠作製・納品
- 株式会社 こころ広告社
 - ダイレクトメール封詰め・宛名シール貼り
- Dog Life Plus
 - 犬・猫用のおやつの小分け作業
- 農事組合法人 友
 - 農作業（ありんこ農園）・米と野菜作り・地域の草刈り等手伝い

(2) 給食センターありんこ亭の実施業務

- ・管理栄養士監修の給食提供・毎日の検食・給食会議の実施（月 2 回）
- ・給食従事者研修への参加・嗜好調査（3 月）

3. 防災

- ・避難訓練 消防訓練
 - ・7 月 1 日（月）就労サポートありんこ・灯籠作業場
 - ・3 月 6 日（木）東広島防災センターにて実施

4. 保健衛生

- ・嘱託医 東広島記念病院による健康診断の実施・インフルエンザ予防接種
- ・体温調査票（毎日）・アルコール消毒液・次亜塩素酸ナトリウム消毒液による消毒の徹底（毎日）・マスクの着用・給食センターありんこ亭関係者 検便の実施

5. 行事

- (1) 第 10 回 ありんこ交流祭
 - ・6 月 8 日（土）黒瀬保健福祉センターにて開催
- (2) 第 18 回 クリスマス交流会
 - ・12 月 14 日（土）各事業所にて分散開催
- (3) 研修・3 月 6 日（木）東広島防災センター・フジグラン

6. 対外行事

- (1) 第 32 回 黒瀬町健康福祉まつり
 - ・10 月 27 日（日）黒瀬生涯学習センター
- (2) 福祉ウォーク

・11月13日(水)黒瀬高校

7. 地域活動

(1) 機関紙(ありんこ新聞)発行

80号(4月)・81号(7月)・82号(10月)・83号(1月) 計4回発行

(2) 施設見学・体験学習実習受入

① 施設見学 ・利用希望者

② 実習受入 ・広島国際大学

8 その他(会議・研修など)

・社会福祉法人 倫 職員会議

・社会福祉法人 倫 企画会議

・就労サポートありんこ ケア会議(2回/年)

・令和6年度 食中毒予防対策講習会

・令和6年度 社会福祉法人 倫 虐待防止委員会

・令和6年度 社会福祉法人 倫 感染症対策委員会

・令和6年度 職員研修会

「東広島市の障害者虐待の防止」

東広島市健康福祉部 障がい福祉課 障がい福祉政策室 主任 溝部淳紘氏

・東広島市手をつなぐ育成会 令和6年度 役員会

・令和6年度 東広島市黒瀬地区共同募金委員会

・令和6年度「黒瀬みらい会議」

V 令和6年度 ホームありんこ（共同生活援助）事業報告

1 利用者について

- ・定員 15名（入所者 12名）

2 個別支援計画書

- ・個々の利用者に沿った支援計画書の作成

3 記録

- ・日々の日報の記録

4 食事の提供

- ・朝食の提供 300円・昼食の提供（事業所休所日のみ）400円
- ・夕食の提供 500円

5 保健衛生管理

- ・うがい・手洗い・マスク着用の徹底
- ・アルコール消毒液・次亜塩素酸ナトリウム消毒液による消毒の徹底

6 送迎サービス

- ・週末の帰宅時・週初めGHへの送迎サービス
- ・通院が困難な方に対する病院への送迎付添サービス
- ・個人的な手続きや買い物等支援が必要な方に対する送迎付添サービス

7 避難訓練・消防点検

- ・7月1日（月）ホームありんこ
- ・3月6日（木）東広島防災センターにて実施

8 余暇活動

- ・休日の外食

VI 令和6年度 ありんこBジョブ(就労継続支援B型)事業報告

1. はじめに
2. 基本方針
3. 職員体制
4. 活動プログラム
5. 利用者へのサービス
6. その他活動

1. はじめに

令和 6 年度も引き続き、職員・利用者ともに感染防止対策を行い、安全面を第一に考えた活動の提供を行った。

また、これまでに当たり前に出来ていたことが出来なくなる場面においては創意工夫を行い「利用者の安全」を柱に行事等の遂行を行った。

- ・ 令和 6 年度、22 名の利用者でスタートする。
- ・ 障害者総合支援法の基本理念に基づき、「日常生活・社会生活」の支援を行う。
- ・ 障害者虐待防止法に基づき、倫理要綱の遵守。

2. 基本方針

就労移行支援事業を利用したが一般企業等の雇用に結びつかなかった方や、働くことを希望しているが就労移行支援の利用が困難な方に対し就労や生産活動の機会を提供する（雇用契約は締結しない）

3. 職員体制

- ・ 管理者 1 名（常勤・兼務）
- ・ サービス管理責任者 1 名（常勤・専任）
- ・ 生活支援員 2 名（常勤・専任 1 名、非常勤・兼務 1 名）
- ・ 職業指導員 2 名（非常勤 2 名・専任）

→6 月末から職業指導員 1 名（非常勤・専任）を増員。

4. 活動プログラム

- ・ 年間を通じて、以下のプログラムで活動を行った。

8:30 ~ 9:00	送迎
9:30 ~ 9:45	朝の会・ミーティング
9:45 ~ 10:45	作業 (1 単位)
10:45 ~ 11:00	休憩
11:00 ~ 12:00	作業 (2 単位)
12:00 ~ 13:00	昼食・休憩
13:00 ~ 14:00	作業 (3 単位)
14:00 ~ 14:15	休憩
14:15 ~ 15:10	作業 (4 単位)
15:10 ~ 15:20	片付け・掃除

15：20 ～ 15：30	終わりの会
15：30 ～	送迎

○作業時間 2 3 5 分（4 単位）

5. 利用者へのサービス

（1）個別支援

利用者一人一人の個性や障害特性を理解し、個別支援計画に沿って日々の支援を行う。

①個別支援計画

- ・利用者のニーズや個性等を把握し、利用者との面接や職員会議等で協議し、作成を行った。
- ・半年毎、または本人の要望に応じて評価・見直しを行い、その結果が次の支援に結び付くような発展的な計画作成を行った。

②相談等

- ・利用者の生活や心身の健康等について、必要に応じて面接や電話相談、訪問を行った。
- ・必要に応じて職員会議や関係機関とのケア会議を開催し、支援の方向性について検討を行った。
- ・相談内容として、作業への取り組み方や、内容の変更等が多く、次いで生活改善のためのトレーニングや嗜好品の節制等、利用者同士のコミュニケーションや付き合い方などの相談もみられた。また利用者、その家族の高齢化も進み、今後の生活への不安やいざという時の対応についての相談もみられた。

（2）生産活動

利用者一人一人に合わせた支援を行うと同時に、作業効率と工賃の向上を目指した取り組みを行った。

令和 6 年度下請け収入 1, 886, 062 円

令和 6 年度工賃支給額 1, 501, 135 円

①ゆずちゃん作業（自主製品トイレのゆずちゃん／受注製品あかぱっくん等）

- ・個々の能力に応じた作業支援を行い、作業意欲・正確さ・臨機応変さを向上させ全体の作業効率の維持を目指した取り組みを行った。
- ・利用者のその日やその前後の本人の状態を考慮しながら、一人一人の作業内容を調整した。利用者全体の高齢化もあり、生産力や作業意欲の低下がみられているため、今後、活動のモチベーションを向上させることができるような取組の検討が必要。
- ・今年度は利用者一人一人の「作業の正確さ」「作業の集中力」「作業変更等による臨

機応変な対応」「作業種別」「作業量」「作業の継続時間」の6つの項目を基に個別に工賃の時給を設定した。一人一人の利用者のコンディションが日によって差が大きいことも評価をする上でのポイントとし、本人の能力に応じた評価を行った。工賃ランクに関心がない利用者もいるがモチベーションアップにつながっている利用者もいるため、継続して行いたい。また、職員側は毎日評価をするため、作業するだけでなく、作業中の利用者を観察できる利点もあるため、両者にとって良い影響があったと言える。

- ・評価基準は曖昧な面もあるが、利用者の特性や得手・不得手の問題もあるため、利用者個々で能力の「標準」を決め、個人が持つ作業能力をどれだけ出せたかを、1日の作業状況と上記の6点の視点から評価する内容を継続実行したい。また、内職作業だけの評価ではなく、畑作業・香木堂シール貼り作業も含めた評価となるため、密に職員間の情報共有をする必要性がある。

②ケーキ作り作業

- ・法人内の利用者誕生日会に向け、作業活動の一環としてケーキ作りを行った。実際に作ったケーキで誕生日会を行うことで、利用者の通所のモチベーションの向上に繋がったと評価する。

③清掃

- ・個々の利用者の清掃スキルは徐々にではあるが上昇しているため、現在の方法や支援内容を継続し、改善点があればその都度検討する。
- ・継続的に参加できる利用者が減少したため、清掃参加者の育成支援が課題である。

④畑作業

- ・利用者の高齢化による体力の低下や酷暑であることを考慮し、安全な活動の提供をするため、全体的に作業日数を減少して取り組んだ。参加人数が減少傾向にあるため、今後、作業を継続していくかを検討する。

⑤香木堂シール貼り作業

- ・H29年9月より行っている作業であり、商品である「かりんとう」を入れる袋にラベルを貼る仕事を実際に香木堂に出向き、同社の作業場にて行う作業である。
- ・治具の作成・活用により作業能率や正確性が向上している。
- ・Bジョブだけでなく、生活介護事業所の利用者と共同で作業に取り組んでいる。

⑥広報誌配達業務

- ・H29年5月より行っている作業であり、下黒瀬地区住民自治協議会からの委託作業である。月に1度、市政だより等の広報誌を就労サポートありんこと区分けをして下黒瀬地区（約300件）へ配布している。
- ・配布ルートの確立をすることで、作業能率が向上した。
- ・参加人数が減少傾向にあるため、育成支援を課題とする。

⑦光文堂内職作業（桐箱組立作業・ダンボール組立作業・DM封入作業）

- ・桐箱の組立作業に関しては、工程も多いため、携わることのできる利用者が限られている。ダンボールの組立作業に関しては、作業工程を説明することで、多くの利用者が携わることが出来ている。DMの封入作業に関しては、作業工程を分けることにより、ほぼ全員で取り組めた。今後も継続して、工程を細分化するなど、多くの利用者が携わることが可能な作業の仕組作りを行う。

⑧三共産業ネジ組立作業

- ・R5年2月より呉市安浦町にある三共産業からの依頼で、ネジ等を使った部品の組み立て作業を行っている。作業工程も少なく、治具を使用することで、多くの利用者が携わることのできる作業となっている。また生活介護事業所とも共同で行い、利用者の活動を確保することにも繋がっている。

⑨その他

- ・賀茂精神医療センターで行われた盆踊り（9/12）、文化祭（11/8）にて、出店を行い、Bジョブで作成した小物や農事組合法人友の米等を販売した。（利用者も参加）引き続き、各関係機関と連絡を取り、状況を見ながらイベント参加ができる体制を整えておく。
- ・R6年10月より、ヤマトフーズより、缶詰箱詰め作業や箱組立作業を受注している。作業参加者の育成を行い、受注数を向上させることを目標とする。

（3）評価等

①工賃ランク

- ・上記の「ゆずちゃん作業」にあるように、評価方法を見直し、利用者個々の時給の設定を行った。

②MVP制度

- ・この制度を設けることにより利用者からの推薦の申出、獲得理由が全員の納得を得られたり、自分の獲得回数の確認を行ったり、利用者が意識して活動に取り組んでいる様子が伺え、このMVP制度が利用者に浸透していることが実感できた。また、課題としては作業にしっかりと取り組めた利用者が獲得する事が多いため、作業以外の部分にも目を向けていくことが必要である。

③皆勤賞

- ・毎月、皆勤賞を獲得する利用者はある程度固定されているが、目指している利用者同士が励ましながら通所し、利用日数の維持にも貢献した。

④全通所賞

- ・体調によって作業ができなかった利用者も、通所のモチベーションが上がるような取り組みとして行っている。実際に、皆勤賞を取り損ねても全通所賞を目指して、通所する利用者も数名いた。

⑤フルタイム手当

- ・全員ではないが、一定の利用者にとっては励みになり、「今日はフルタイムを目指す」と意識して作業に取り組んでいる利用者もみられた。

(4) 余暇活動

①利用者ミーティング

- ・毎月5日に利用者と職員で、予定の確認や連絡事項、レクリエーションの内容の話し合い等を行った。参加者はある程度固定されているが、ミーティングの進行など利用者と職員が分担しながらスムーズに行えるようになった。

②レクリエーション

- ・年間を通じて、作業と同時並行で行ったため、レクリエーションに参加しない利用者の通所日数が増えた。レクリエーションに参加しない利用者の活動を考慮するためにも、今後も作業と同時並行できるよう計画立てていきたい。
- ・今年度は参加がほとんどなかった利用者も職員からの声掛けや、利用者同士の声掛けによって参加する回数が増えている。
- ・内容としては、花見などの行楽、ドライブ・買い物、忘年会や昼食会（調理実習）等を行った。利用者の高齢化もあり、年々、体を動かすレクリエーションの希望や参加が減少していることが傾向としてある。またの利用者の状況は以前と異なり、作業ではなく余暇活動を目的としている利用者が増加しているため、回数の増加も検討していく。
- ・今年度は感染症を考慮しながら、施設内での小規模なレクリエーションだけでなく、Bジョブ全体で外出する形で、花見や忘年会の企画立案・実行ができた。その中で、状況に合わせて、少人数でグループに分かれての小規模レクリエーションも織り交ぜながら、余暇活動を目的とした利用者への対応ができ、通所数の増加にも繋がった。

③クローバー（ピア活動）

- ・利用者の自主活動と位置付けているため、会の運営や進行は全て利用者に任せた。今年度は、開催が無かったが、会としては残しておきたいという声が上がったため、存続はしている状態にある。職員の介入のタイミングは難しいが、意義ある活動して継続できるように声かけをしていく必要がある。

④誕生日会

- ・利用者の誕生日に合わせて行った。利用者は全員、自身の誕生日、他者の誕生日を楽しみにしているため、継続して行いたい。

⑤交流行事

- ・感染対策を講じ、利用者の安全に配慮したうえで、法人内の事業所と共同し、保健福祉センターにて「ありんこ交流祭」を行った。(6/8)

- ・社会福祉法人倫、育成会、保護者会と共同し、「黒瀬町健康福祉まつり」への参加を行った。(10/27)
- ・地域共生社会をテーマに開催されたイベント「福祉ウォーク」への参加を行い、太陽の町、黒瀬高校との交流を行った。(11/13)

⑥プチハッピー

- ・日常の生活習慣や身だしなみ等、集団生活においてお互いが気持ちよく活動できるための事柄を各月の目標としてきている。利用者・職員全員その月の同一目標として取り組んでいるが、11年目になると意識して行動する者は偏りはじめているため、内容や声かけ等の方法の再検討が必要。

(5) その他活動

①体調管理

- ・体温管理…毎日
- ・定期健康診断…年1回(11月)
- ・インフルエンザ予防接種…希望者のみ(実費)
- ・バイタルチェック…毎月2回
- ・アルコール消毒、手洗い、うがい励行の呼びかけ・バイタルチェック

②送迎サービス

- ・送迎希望者への送迎サービスの実施(12名)

③消防訓練

- ・12/10、12/18に実施

④見学、実習の受け入れ

- ・依頼による見学の受け入れ
- ・広島国際大学より「社会福祉士実習」の受け入れを行った。(3名)
 - 8.9月(1名)
 - 2月(2名)
- ・広島福祉専門学校より「精神保健福祉士実習」の受け入れを行った(2名)
 - 10月(2名)

Ⅶ 令和6年度 相談支援事業所ありんこ 事業報告

1 事業の内容

(1) 実施事業

- ①指定特定相談事業（計画相談支援）
- ②指定一般相談支援事業（地域移行支援）
- ③指定障害児相談支援事業

(2) 通常の事業実施地域

黒瀬町

(3) 営業日・時間

営業日 法人の年間開所予定による

営業時間 8：30～17：15

(4) 職員体制

管理者 1名（兼務）

相談支援専門員 2名（専任1名、兼任1名）

(5) 苦情解決

要望、苦情等の申立先、及び相談窓口を設け、事実確認や解決に向けて関係調整を図る体制をとる。令和6年度の苦情の申立は0件であった。

2 指定特定相談事業（計画相談支援）

(1) 内容

①サービス利用支援

利用者本人やご家族の来所による面接又は訪問を行い、心身の状況や生活環境を把握し、適切な保健、医療、福祉、就労、教育等に係るサービス等が総合的かつ効率的に提供されるようサービス等利用計画の作成に努めた。

②継続サービス利用支援（モニタリング等）

利用者及びその家族等とサービス等利用計画に記載の通り各事業のサービスが提供されているか、モニタリングとして経過について確認し、把握した。

各事業がサービス等利用計画の目標に沿ってサービスが提供されるよう、福祉サービス等の事業者等との連絡調整を行った。

③各事業のサービス等利用計画の変更

利用者がサービス等利用計画の変更を希望した場合、又は事業者がサービス等利用計画の変更が必要と判断した場合は、事業者と利用者双方の合意に基づき、サービス等利用計画を変更した。

④その他

相談支援に付帯するその他必要な支援を行った。

(2) 対象者

障害者（障害の特定はしない）

(3) 対応件数

- ①新規契約者 3名
- ②継続契約者 93名
- ③契約終了者 6名
- ④サービス利用支援 78件
- ⑤継続サービス利用支援 128件

3 指定一般相談事業（地域移行支援）

(1) 内容

障害者支援施設や精神科病院等にいる障害者が、地域における生活に移行するための活動に関する相談その他の支援を行う。

- ①地域移行支援計画の作成
- ②入所施設や精神科病院への訪問による利用者に対する相談及び援助
- ③障害福祉サービス事業の体験的な利用等に係る動向による必要な支援
- ④1人暮らしに向けた体験的な宿泊に係る支援

(2) 対象者

障害者（障害の特定はしない）

(3) 対応件数（実人数）

- ①新規契約者 0名
- ②継続契約者 0名
- ③契約終了者 0名

※今年度は指定一般相談事業に関する依頼がなかった。

4 指定障害児相談支援

(1) 内容

- ①サービス利用支援
- ②継続サービス利用支援（モニタリング等）
- ③各事業のサービス等利用計画の変更
- ④その他相談支援に付帯するその他必要な支援を行った。

(2) 対象者

障害者児（障害の特定はしない）

(3) 対応件数（実人数）

- ①新規契約者 0名
- ②継続契約者 5名

- ③契約終了者 1名
- ④サービス利用支援 7件
- ⑤継続サービス利用支援 0件

Ⅷ 令和6年度 ありんこの家（共同生活援助）事業報告

(ア) 令和6年4月1日より事業所開設

1 利用者について

- ・定員 7名（入所者 7名）

2 個別支援計画書

- ・個々の利用者に沿った支援計画書の作成

3 記録

- ・日々の日報の記録

4 食事の提供

- ・朝食の提供 300円 ・昼食の提供（事業所休所日のみ）400円 ・夕食の提供 500円

5 保健衛生管理

- ・手洗い、マスク着用の徹底 ・朝の検温、血圧測定
- ・アルコール消毒液・次亜塩素酸ナトリウム消毒液による消毒の徹底

6 送迎サービス

- ・週末の帰宅時・週初めGHへの送迎サービス
- ・通院が困難な方に対する病院への送迎付添サービス
- ・個人的な手続きや買い物等支援が必要な方に対する送迎付添サービス

7 消防訓練

- ・年2回実施

従事する職員の大部分はこれまで消防訓練の経験がないため、講師を招いて実地訓練を実施し、また消防署より機材を借りて緊急時における対応の訓練を行った。

8 余暇活動

- ・夕食時の特別食

9 感染症対策

- ・年2回の委員会開催及び年2回研修・訓練の実施

10 職員会議

- ・年4回開催

IX 令和6年度 ありんこの家（短期入所）事業報告

* 令和6年4月1日より事業所開設

1 利用者について

・定員 3名（利用者 1名）

月別延べ利用人数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1

※ 利用は体験利用による

2 記録

・日々の日報の記録

3 食事の提供

・朝食の提供 300円・昼食の提供（事業所休所日のみ）400円 ・夕食の提供 500円

4 保健衛生管理

・手洗い、マスク着用の徹底 ・朝の検温
・アルコール消毒液・次亜塩素酸ナトリウム消毒液による消毒の徹底

5 消防訓練

・年2回実施

6 感染症対策

・年2回の委員会開催及び年2回研修・訓練の実施

令和7年度事業計画書

第25期

(自)令和7年4月1日

(至)令和8年3月31日

社会福祉法人 倫

東広島市黒瀬町丸山18-35

令和7年度事業計画書

I. 法人本部 事業計画	・・・1
II. 黒瀬ありんこ事業計画書	・・・2
III. ショートステイありんこ（日中一時支援）事業計画書	・・・7
IV. 就労サポートありんこ(就労継続支援B型)事業計画書	・・・8
V. ホームありんこ（共同生活援助）事業計画書	・・・15
VI. ありんこBジョブ（就労継続支援B型）事業計画書	・・・17
VII. グループホームありんこの家（共同生活援助・短期入所）	・・・22
VIII. 相談支援事業所ありんこ 事業計画書	・・・26
IX 行事予定表	・・・29
X 組織図	・・・30

令和7年度 社会福祉法人 倫 事業計画書

I 法人本部

1 令和7年度施設整備について

本部前の土地は現在東広島市及び個人所有の土地を駐車場、および進入路として使用している。東広島市所有の土地は無償貸与契約を結んでいるが個人所有の土地は令和7年度中に購入すべく交渉中である。尚、先方は売却の意思表示をされており相手方の事務手続きが完了次第購入予定である。

2 ありんこ B ジョブ移転について

現在ありんこ B ジョブは（株）藤三の建物を無償貸与されているが令和8年中に退去を求められたため、令和7年度中に乃美尾灯籠作業所に移転作業を行い令和8年度より完全移転しこの地で事業遂行する予定である。そのため令和7年度は令和8年度より供用開始のため準備を行う。これに伴い灯籠作業所を就労サポートに移転し集約を図る。

3 コロナ等感染防止対策について

新型コロナウイルス感染症については5類感染症に移行したが、引き続き衛生管理及び感染防止の徹底を図り、利用者並びに職員に対する特段の健康面・安全面の配慮を行う。

4 合理的な法人運営について

今後の人件費の増加等支出面の増加に対応していく。そのため運営方法の見直し等更なる対応策を講じることにより合理化を図り経費削減を行う。

5 福祉・介護職員の処遇改善、ベースアップ手当について

障害福祉現場の最前線において働く福祉・介護職員の賃金上昇を行うべく処遇改善加算を取得し賃金の改善を図っているが、2024年度からの厚労省による賃上げ検証、事業者の経営報告義務が発生するためこの方針に沿った対応を引き続き図る。

Ⅱ 令和7年度 黒瀬ありんこ(生活介護) 事業計画書

1. はじめに
2. 基本方針
3. 概要及び支援方針
4. 職員配置
5. 活動プログラム
6. 利用者への支援内容
7. 行事及び地域活動
8. 研修
9. 防災・安全

Ⅱ 黒瀬ありんこ 生活介護 事業計画

1.はじめに

利用者の特性に応じ、自立した日常生活又は社会生活を営むことができる様に入浴・排泄・食事の介護、機能訓練・健康管理の支援を行う。衛生管理の徹底・感染防止は、昨年引き続き対策を図り利用者、職員について特段の安全面の配慮を行いながら事業を実施していく。

2.基本方針

- 「人間尊重の心」の基本理念に基づき、やさしさ、思いやり、けじめの運営思想を持って行動する。
- 利用者一人一人の個性や障害特性を理解し作成した個別支援計画に沿って支援を行う。
- 「利用者と共に楽しむ」をモットーに、利用者の能力・体力に応じた“できること”を見出していく。
- “できた喜び”を利用者と職員が共有するため優しく丁寧な支援を行い、利用者の自信へと繋げる。

3.概要及び支援方針

- 令和7年度は、38名の登録者でスタートする。
- 障害者総合支援法の基本理念に基づき「日常生活・社会生活の支援」を行う。
- 障害者虐待防止法に基づき、倫理要綱を遵守していく。

4.職員体制

管理者 1名・サービス管理責任者 1名・生活支援員 13名（常勤 3名・非常勤 10名）
看護職員 3名（非常勤 3名）・事務員 1名（常勤 1名）・嘱託医（東広島記念病院・康成病院）

5.活動プログラム

(1) 年間行事予定 別紙年間行事予定表にて遂行

(2) 月間予定

○利用者工賃支給日 毎月 5日

○バイタルチェック 毎日の自宅での検温と月 1回(第 1 火曜日)の体重・血圧測定を行い、健康管理を行う。

○合同誕生会 ・毎月 1回、誕生月の利用者個々に選んでもらったケーキを昼食時に提供する。

○その他

- ・療法士による音楽療法の実施。
- ・療法士による運動療法の実施。
- ・ボランティアによる読み聞かせの実施。

(3) 日常プログラム (作業時間 195分)

8:30~9:00	送迎
9:00~9:30	自由時間
9:30~10:00	朝礼・ミーティング
10:00~10:45	作業 (1時間目)
10:45~10:55	休憩 (①休憩)

10:55～11:35	作業 (2時間目)
11:35～13:00	昼食・昼休憩
13:00～13:20	ラジオ体操・ストレッチ
13:20～14:00	作業・余暇活動 (3時間目)
14:00～14:10	休憩 (②休憩)
14:10～14:40	作業・余暇活動 (4時間目)
14:40～14:50	休憩 (③休憩)
14:50～15:25	作業・余暇活動 (5時間目)
15:25～15:40	片付け・掃除
15:40～	送迎

6.利用者への支援内容

(1) 介護

①利用者への支援方針

- 利用者の基本的人権に配慮し状況に応じた介護の提供及び支援を行う。
- 利用者個々のニーズや特性に合った支援を行う。
- 施設内での利用者の変化を見逃さず、状況にあわせた対応を行う。

②排泄介助

- 利用者の排泄状況を踏まえたトイレ誘導・排泄介助を実施する。
- 排泄介助時、身体状態に気を配る。

③入浴介助

- 着替え支援時に身体の異常に気を配る
- 利用者・保護者のニーズ、状況に沿ったサービスを提供する。

(2) 生産活動方針

- 利用者の意向・適性・障害の特性・能力等を考慮した多種多様な生産活動の実施をする。
- 新規作業の開拓を行う。
- 利用者が生産活動や余暇活動に意欲的に取り組めるよう自己選択を促す支援を実施する。

(3) 作業科目

- 下請け作業（パールスター）、香木堂
- 清掃作業（黒瀬保健福祉センター内）
- ありんこ亭（弁当箱の洗浄、片付け等）

(4) 工賃支払

- 生産活動に係る事業収入から当該事業に必要な経費を控除した額を支払う。

(5) 食事提供

- 利用者の特性に配慮した食事介助を行う。
- 体重管理を行い食事量の見直しを図る。
- 看護職員による経管栄養を実施する。
- 適切な衛生管理を実施する。

(6) 健康管理

- 定期健康診断 年1回実施 東広島記念病院
- 体温調査票（毎日実施）
- バイタルチェック 月1回(第1火曜日)、体重・血圧測定を行う
- 感染症対策 アルコール消毒、手洗い、うがいの励行、マスクの着用等徹底した感染症対策を行う。

(7) 利用者送迎

- 送迎希望者への送迎を行う。

7.行事及び地域活動

(1) 企画行事

- ありんこ交流祭
 - ・ボランティア（黒瀬高校福祉科・広島国際大学「つぶ」）・障害者・障害児・職員が各イベントに参加し交流を図る事を目的とし、地域住民との交流の場として開催する。
 - ・開催予定 5月
- クリスマス交流会
 - ・手をつなぐ育成会・父母の会・カンガルーの会の協力を得て開催する。
（開催方式については、別途協議する。）
 - ・開催予定 12月
- 施設内行事の充実 ・各種季節イベント
 - ・日帰り旅行
 - ・ありんこ運動会…9月
 - ・りんりん祭り…11月
 - ・その他 季節のイベント(端午の節句・七夕・節分・雛祭り)に関しては、利用者に季節を感じてもらえるよう、工夫し行う。

(2) 対外行事及び地域行事

- 黒瀬町健康福祉祭り（6月予定）実行委員会に参画。
- 東広島市福祉祭り（11月予定）実行委員会に参画。

(3) ありんこ新聞発行

- 施設紹介、イベント紹介等を盛り込み、親しみのある新聞を発行する。
- 年4回（4月・7月・10月・1月）発行する。

(4) 施設見学・実習

- 地域や関連団体からの見学希望、各学校からの実習を積極的に受け入れる。
- 地域の交流の場として施設を開放する。

8.研修

- 各職員の職務に対応した研修を受ける。
- 各分野での専門家を育成する体制を構築する為の研修に参加する。
- 各種研修会に参加後施設内研修を行い、職員全員で情報を共有する。

○その他施設内研修を充実させる。

9.防災・安全

○消防署と連携した年 2 回防災訓練を実施。

○避難経路を確保するために整理整頓を行うとともに、防災意識の高揚を図る。

Ⅲ 令和7年度 ショートステイありんこ（日中一時支援）事業計画書

1. はじめに
2. 基本方針
3. 利用定員
4. 職員体制
5. 利用者への支援内容
6. 利用対象者
7. 利用料

1.はじめに

利用者（障害者・児）及び保護者のニーズを最大限尊重し、日帰り入浴、・排泄・食事介助等必要な支援を行っていく。

2.基本方針

障害のある方の日常的な支援を担われている保護者の方を中心としたご家族のレスパイトケアを目的に、障害のある方の日中の活動の場を一時的に提供する。

3.利用定員 6名

4.職員体制

管理者 1名・生活支援員 1名（非常勤 1名）
事務員 1名（常勤 1名）・嘱託医（東広島記念病院・康成病院）

5.利用者への支援内容

- ・就学されている障害者(児)の放課後、長期休暇時の支援
- ・障害者(児)送迎・入浴サービス
- ・食事提供、健康管理

6.利用対象者

原則として地域生活支援事業の支給決定を受けた方。

7.利用料

市町村が定める地域生活支援事業費及び重要事項説明書に定める所定の利用負担額。
地域生活支援事業費については事業者が市町村から代理受領する。

IV. 令和7年度 就労サポートありんこ（就労継続支援B型） 事業計画書

1. はじめに
2. 基本方針
3. 職員体制
4. 活動プログラム
5. 就労継続支援B型事業
6. 個別支援計画
7. 行事及び地域活動
8. 研修
9. 防災・安全

IV. 就労サポートありんこ（就労継続支援B型）

1. はじめに

令和7年度も継続して、利用者、職員の感染防止、安全面を第一に考え、情勢に合わせて適宜対応しながら、企画の立案等を行う。

就労サポートありんこでは生産活動を基本に、利用者の特性に合わせた活動を提供し、就労に必要な知識や能力の向上や維持を図る訓練を行う。また、安全面や体調面を考慮しつつ、利用者の意欲（希望）により、活動内容の変更も行い、常に挑戦することができる環境を提供し、利用者のスキルアップを図る支援を行う。

令和7年度、就労サポートありんこは定員20名とし、16名の利用者でスタートする。障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するため「基本的人権を享有する個人としての尊厳」を職員全員が意識統一し、共生社会の実現のため、日常生活・社会生活の支援を行っていく。また、障害者虐待防止法に基づき、虐待防止マニュアルによって虐待防止の徹底を図り、倫理要綱を遵守する。

2. 基本方針

「人間尊重の心」の基本理念に基づき、「やさしさ」「思いやり」「けじめ」の運営思想を持って行動する。

障害者の自発的な取り組み、喜び、自覚と誇りが持てる環境づくりを行う。

利用者に対し、過保護になり過ぎない様に留意した個別支援計画を立てる。

3. 職員体制

管理者1名（常勤・兼務）・サービス管理責任者1名（常勤・専任）・職業指導員2名（常勤2名・専任）・生活支援員2名（常勤非常勤各1名・専任）・調理員3名（非常勤・専任）・事務員1名（常勤・兼務）・嘱託医（東広島記念病院）

4. 活動プログラム

(1) 年間行事予定 別表1

(2) 月間予定

① 毎月5日・・・利用者工賃支給日

② 毎月第2木曜日・・・バイタルチェック

(3) 日課

8:30 ~ 9:00	送迎
9:25 ~ 9:50	朝の会・ミーティング
9:50 ~ 10:40	作業(1単位)
10:40 ~ 10:50	休憩

10:50 ~ 11:40	作業 (2 単位)
11:40 ~ 11:50	昼食準備
11:50 ~ 12:40	昼食・休憩
12:40 ~ 13:30	作業 (3 単位)
13:30 ~ 13:40	休憩
13:45 ~ 14:30	作業 (4 単位)
14:30 ~ 14:40	休憩
14:40 ~ 15:25	作業 (5 単位)
15:25 ~ 15:35	片付け・掃除
15:35 ~ 15:45	終わりの会
16:00 ~	送迎

○作業時間 245 分 (5 単位)

5. 就労継続支援 B 型事業

(1) 生産活動

- 利用者の知識・能力向上と工賃確保のための事業所内外各種生産活動等の実施。
- 自主製品作製 トイレのゆずちゃん

① 給食センターありんこ亭

活動場所：東広島市黒瀬檜原東 1 丁目 11-5 (就労サポートありんこ内)

作業内容：給食作業における盛り付け・洗浄

支援内容：作業に入る前に、体調・髪・爪・服装等のチェックを行い、利用者が自発的に責任感と心構えを持って身だしなみや身体を清潔に保つ事が出来る様、衛生管理の徹底を図り、丁寧に確実な作業内容を実践し、工賃 UP に向けた訓練・支援を行う。

② 外部からの委託業務

●社会福祉法人 東広島市社会福祉協議会

活動場所：黒瀬保健福祉センター

作業内容：毎月 (隔週 月・水・金) 清掃作業

支援内容：黒瀬保健福祉センターを訪れた方が気持ち良く利用して貰える様、目の届きにくい場所等のチェックを行う。

担当表の作成。現場での役割分担の指示。利用者と共に清掃と見守りを行う。

●下黒瀬住民自治協議会

活動場所：下黒瀬地区 (下条・東側・田代)

作業内容：広報誌等配布業務

支援内容：配達ミスの無い様に指示する。慌てず丁寧に投函する。

③ 各種下請け作業

●株式会社 コーポレーションパールスター

活動場所：東広島市黒瀬檜原東1丁目11-5（就労サポートありんこ内）

作業内容：（1）あかぱっくん・トイレのゆずちゃん製作
（2）靴下・サポーター・リストバンド・杖カバーの縫製下準備作業
（3）パッケージシール貼り作業

支援内容：個々の得意分野を伸ばせる様に作業内容を検討し、作業効率や利用者が集中して作業に取り組める環境を整え、利用者の特性を踏まえた支援を行う。
また、作業によって起こる手荒れや乾燥のケアや健康面、衛生面にも気を配り、利用者の状態に合わせて作業内容の見直しも行い、安心して作業に取り組むことができる環境作りに努める。

●有限会社 カネイ

活動場所：東広島市黒瀬町乃美尾1944-1（灯籠作業場）

作業内容：盆灯籠作製・納品

支援内容：慣れから来るミスが出ない様に、作業内容の確認を徹底していく。
落ち着いて作業し、雑にならない様に注意を促す。個々の能力を生かし伸ばす指導を行う。

●株式会社 こころ広告社

活動場所：①東広島市黒瀬檜原東1丁目11-5（就労サポートありんこ内）

②東広島市西大沢1丁目15-20（株式会社 こころ広告社）

作業内容：ダイレクトメール封詰め・宛名シール貼り等。

支援内容：利用者が落ち着いて取り組める環境を整えミスの発生を防ぐ。個々への声掛けを行い、作業工程の確認を徹底し、清潔な作業を目標とする支援を行う。

●Dog Life Plus

活動場所：東広島市黒瀬檜原東1丁目11-5（就労サポートありんこ内）

作業内容：犬・猫用のおやつの小分け。計量・封入・パッケージシール貼り作業等。

支援内容：ラベルや計量ミスに注意し、類似商品を利用者が混同しないように支援を行う。また衛生面に於いても配慮する。

●農作業（ありんこ農園）

活動拠点：東広島市黒瀬町乃美尾1835-1（スーパーハウス・農業作業場）

作業内容：米と野菜作り・地域の草刈り等の手伝い

支援内容：米作りに重点を置き、その他の野菜も生産増を目指す。

黒瀬ありんこ（生活介護）の利用者と共に協力して作業ができるように、協調性のある環境作りに努めた支援を行う。

(2) 工賃支払い

- ・毎月5日に、生産活動による事業収入より必要経費を控除した相当額を支払う。
- ・個々の工賃額において毎月見直しを行う。

工賃評価の内容としては以下の項目について総合的に判断する。

- ① 作業種別
- ② 作業量
- ③ 正確さ
- ④ 集中力（継続力）
- ⑤ 挨拶・報告・連絡・相談等のコミュニケーション能力又は努力姿勢
- ⑥ 各担当職員による聞き取り

(3) 健康管理

- ① 体温調査票データ管理・・・毎日
- ② 定期健康診断・・・年1回（11月13日（木））
- ③ インフルエンザ等のワクチン接種・・・希望者のみ（実費）
- ④ バイタルチェック・・・毎月第2木曜日
- ⑤ アルコール消毒・手洗い・うがいの実施
- ⑥ 抗原検査・・・必要に応じて
- ⑦ 病院への送迎・・・必要に応じて
- ⑧ 検便・・・毎月ありんこ亭内関係者に実施

(4) 食事提供

- ① 毎月、管理栄養士による献立表の作成。
- ② 栄養のバランスを考慮し、四季折々の食材とありんこ農園で収穫したありんこ米や野菜を用いた献立の提供。
- ③ 適切な衛生管理の実施。
- ④ 毎日の諸記録の実施及び点検。
- ⑤ 毎月2回（第1週・第3週）の給食会議の実施。
- ⑥ 毎日の日誌記入の実施（検食・利用者の作業と支援について）

(5) 研修

年1回、レクリエーションを兼ねて、自立支援と職業訓練を目的とした社会見学、買い物研修等を行い、研修の計画から報告書を作成し提出するまでの一連の工程を実施する。

(6) 利用者送迎

送迎希望者への送迎サービスの実施。

6. 個別支援計画

サービス等利用計画に基づき、個別支援計画の立案、本人・保護者・家族からの聞き取り調査の実施。必要に応じて障害者就業・生活支援センター・ハローワーク等の関係機関等と連携し、必要に

応じたケア会議の開催を図る。

(1) 実習の実施

個別支援計画に基づいて実習出来る様、実習の受け入れ先の確保に努める。

(2) 求職活動支援

個別支援計画・就労継続支援計画に基づき、障害者就業・生活支援センター・ハローワーク等の関係機関と連携し求職活動の支援に努める。

(3) 職場定着支援

就職後6ヶ月以上、障害者就業・生活支援センター・ハローワーク・就労支援機関と連携し、職業生活における相談、職場訪問等の支援の継続に努める。

(4) 相談

施設利用に関する事、日常の悩み、対人関係または就労に関する相談等、必要に応じて法人内事業所（相談支援ありんこ）と連携する。

7. 行事及び地域活動

行事及び地域活動の遂行にあたっては、情勢に合わせ適宜対応し、企画実施となる。

(1) 企画行事

① ありんこ交流祭

- ・ 社会福祉法人倫、手をつなぐ育成会、ありんこ保護者会が共同で開催する。
- ・ 地域交流を目的とするが、外部ボランティアの協力要請は、情勢に合わせ適宜対応し企画実施とする。
- ・ 開催予定 6月14日（土）

② クリスマス交流会

- ・ 社会福祉法人倫、手をつなぐ育成会、ありんこ保護者会が共同で開催する。
- ・ 地域交流を目的とするが、外部ボランティアの協力要請は、情勢に合わせ適宜対応し企画実施とする。
- ・ 開催予定 12月13日（土）

(2) 対外行事及び地域行事

① 黒瀬町福祉まつり 6月 黒瀬生涯学習センター

② 東広島市福祉まつり 11月 東広島運動公園

③ 福祉ウォーク 11月 黒瀬高等学校（体育館）

実行委員会に参加をする。

(3) 施設見学・実習

- ・ 地域の方や関連団体の方から要望があれば出来る限り受け入れる。

- ・小・中・高・大学・特別支援学校等からの実習を受け入れる。
- ・地域の交流の場として施設を開放する。

(4) 社団法人広島県就労振興センター

- ・センターの事業に参加・協力をする。

(5) 地域住民への施設開放

- ・地域行事への参加。
- ・地域食堂（SATO くらせ）の場所提供及び参加。

(6) 地域行事へのバザー出店

- ・東広島市内各種イベント

(7) 東広島市手をつなぐ育成会事務局

東広島市手をつなぐ育成会の事務局として会の円滑な運営に努める。

所在地：東広島市黒瀬檜原東1丁目11-5（就労サポートありんこ内）

8. 研修

- (1) 各職員に対応した研修を受ける。
- (2) 組織として総合的な援助が出来る様に、各分野での専門家を育成する体制を構築する。
- (3) 各種研修会に積極的、計画的に参加を行い、その研修会を基に施設内研修を行う事により、職員全員が知識を共有する体制を構築する。

9. 防災・安全

- (1) 防災計画の立案、防災訓練を実施。
- (2) 消防署と連携し防災について高い意識を持つ。
- (3) 避難経路を確保するために整理整頓を心掛ける。
- (4) 防火設備点検の実施。

V. 令和7年度 ホームありんこ(共同生活援助)事業計画書

1. はじめに
2. 基本方針
3. 職員体制
4. 活動プログラム
5. 利用者へのサービス
6. 防災・安全
7. その他

V. 共同生活援助 ホームありんこ

1. はじめに

令和7年度は、定員15名に対し、12名の利用者でスタートする。利用者は「働く事」と「通所する事」を基本に、日常生活のサポートを受けながら共同生活を送り、地域での自立生活を目指す。また、ホームありんこの見学・体験希望者についても、対応する。

2. 基本方針

社会福祉法人 倫の基本方針に基づき、障害者に対し、共同生活援助サービスを提供する。

3. 職員体制

管理者1名（常勤・兼務）・サービス管理責任者1名（常勤・兼務）・生活支援員3名（常勤2名・専従）（非常勤1名・専従）・世話人4名（常勤2名・専従）（非常勤2名・専従）

4. 活動プログラム

- (1) サービス等利用計画に基づく個別支援計画の策定、本人、家族等からの聞き取り調査の実施、必要に応じて生活支援センター等の関係機関と連携、調整を行う。
- (2) 日々様子を観察するとともに、ケース記録の管理を行い必要に応じて世話人との会議を開催し日常生活における支援等を適切に遂行する。
- (3) 東広島市障害者地域生活体験事業委託
東広島市と連携、体験事業の推進を図る。

5. 利用者へのサービス

- (1) 入浴・排泄等の支援（介護）
- (2) 家事等の日常生活上の支援（介護）
- (3) 食事等の援助・支援（介護）（朝食300円・昼食400円（休所日）・夕食500円）
- (4) 健康管理の援助（定期受診・ワクチン接種・抗原検査）
- (5) 金銭管理の援助
- (6) 日常生活における相談支援
- (7) その他必要な手続き（行政・医療機関・移動支援手配等）
- (8) レクリエーションの実施

6. 防災・安全

- (1) 防災計画の立案、防災訓練、防火設備点検を実施。
- (2) 消防署と連携し防災について高い意識を持つ。
- (3) 非難経路を確保するために整理整頓を心がける。

7. その他

利用者の受入については、法人内事業所（就労サポートありんこ・相談支援ありんこ）と連携を図り対応する。

VI. 令和7年度 ありんこBジョブ(就労継続支援B型)事業計画書

1. はじめに
2. 基本方針
3. 職員体制
4. 活動プログラム
5. 利用者へのサービス
6. その他活動

1. はじめに

令和7年度も引き続きコロナウイルス等、感染対策を講じ、利用者、職員の感染防止、安全面を第一に考慮し企画等の立案・実施を行う。

また、これまで当たり前に出ていたことが出来なくなる場面においては創意工夫を行い「利用者の安全」を柱に行事等を遂行する。

- ・令和7年度、22名の利用者でスタートする。
- ・障害者総合支援法の基本理念に基づき、「日常生活・社会生活」の支援を行う。
- ・障害者虐待防止法に基づき、倫理要綱の遵守。

2. 基本方針

就労移行支援事業を利用したが一般企業等の雇用に結びつかなかつた方や、働くことを希望しているが就労移行支援の利用が困難な方に対し就労や生産活動の機会を提供する（雇用契約は締結しない）とともに、一般就労に必要な知識・能力が高まった方には、一般就労等への移行に向けた支援を行う。

3. 職員体制

管理者1名（常勤・兼務）・サービス管理責任者1名（常勤・専任）・生活支援員2名（常勤・専任1名、非常勤・兼務1名）職業指導員2名（非常勤2名・専任）

4. 活動プログラム

8:30 ~ 9:00	送迎
9:30 ~ 9:45	朝の会・ミーティング
9:45 ~ 10:45	作業（1単位）
10:45 ~ 11:00	休憩
11:00 ~ 12:00	作業（2単位）
12:00 ~ 13:00	昼食・休憩
13:00 ~ 14:00	作業（3単位）
14:00 ~ 14:15	休憩
14:15 ~ 15:10	作業（4単位）
15:10 ~ 15:20	片付け・掃除
15:20 ~ 15:30	終わりの会
15:30 ~	送迎

○作業時間 235分（4単位）

5. 利用者へのサービス

（1）個別支援

利用者一人一人の個性や障害特性を理解し、個別支援計画に沿って日々の支援を行う。

①個別支援計画

- ・利用者の希望や個性等を把握し、利用者との面接や職員会議等で協議し、作成する。
- ・半年毎の評価・見直しを行い、その結果が次の支援に結び付くような発展的な計画となることを目指す。

②相談等

- ・利用者の生活や心身の健康等について、必要に応じて面接や電話相談、訪問を行う。
- ・必要に応じて職員会議や関係機関とのケア会議を開催し、支援の方向性について検討する。

(2) 生産活動

利用者一人一人に合わせた支援を行うと同時に、作業効率と工賃の向上を図る。

①ゆずちゃん作業（自主製品トイレのゆずちゃん／受注製品あかぱっくん等）

個々の能力に応じた作業支援を行い、作業意欲・正確さ・適応能力を向上させ、全体の作業効率を維持する。

②ケーキ作り作業

法人内の利用者誕生日会に向け、作業活動の一環としてケーキ作りを行う。通常の内職作業を併せて行うことで、メリハリをつけて活動することを目的とする。

③清掃

作業前後のミーティングと定期的なルール確認を行い、清掃作業のマニュアルの浸透を図る利用者支援を行う。また、定期的に参加できる利用者の育成支援を行う。

④畑作業

年間を通して作業できる利用者の育成支援を目指し、利用者が担当できる作業を確立していく。また、利用者の主体性を養うための育成支援も行う。

⑤香木堂シール貼り作業

治具の使用により、作業効率を向上させるとともに、多くの利用者が携わることができる体制を確立させる。また利用者に地域との関わりを経験してもらう。

⑥広報紙等配達業務

作業に携わる事の出来る人材の育成やルートを確立させることによって作業効率の向上を図る。

⑦光文堂内職作業（桐箱組立・ダンボール組立作業・DM封入作業）

個々の能力に応じた作業支援を行い、作業意欲・正確さ・適応能力を向上させ、全体の作業効率の向上及び作業へ携わることのできる利用者の増加を目指す。

⑧三共産業ネジ組立作業

個々の能力に応じた作業支援を行い、作業意欲・正確さ・適応能力を向上させ、全体の作業効率の向上及び作業へ携わることのできる利用者の増加を目指す。

⑨ヤマトフーズ缶詰箱詰め作業

個々の能力に応じた作業支援を行い、作業意欲・正確さ・適応能力を向上させ、全体の作業効率の向上及び作業へ携わることのできる利用者の増加を目指す。

⑩その他

外部機関での出店やその他状況に応じた作業を行う。

(3) 評価等

①工賃ランク

内職、農作業に対し、「作業の正確さ」「作業の集中力」「作業変更等による臨機応変な対応」「作業種別」「作業量」「作業の継続時間」の6点から評価を行い、5段階評価で工賃額を5ランクに設定し、毎月評価の見直しを行う。利用者の作業意欲と作業能力の向上を目的とする。

②MVP制度

その日のMVP（「一番輝いていた利用者」）を職員が決め、ひと月に一番多くMVPを獲得した利用者に月間MVPとして表彰と副賞を贈呈する。作業場面やそれ以外での活躍、行動等を考慮するため、作業に参加できない利用者や、やむを得ず作業時間が少ない利用者にも獲得チャンスがあることで、利用のモチベーションを向上させる。

③皆勤賞

1か月毎、開所日全て通所し作業に携わると、「皆勤賞」として表彰と皆勤手当（1,000円）が工賃に加算される。利用日数や利用者のモチベーションの向上を図ることを目的とする。

④全通所賞

作業の有無を問わず、1か月毎、開所日全て通所すると、「全通所賞」として表彰と全通所手当（500円）が工賃に加算される。毎日仕事をするのが難しい利用者の利用日数の増加や利用者のモチベーションの向上を図ることを目的とする。

⑤フルタイム手当

1日4時間以上作業すると、1日当たり50円が加算される。全作業時間取り組むモチベーションをあげることを目的とする。

(4) 余暇活動

①利用者ミーティング

毎月5日（休所日の時はその前日）に行い、予定の確認や行事の計画、その他必要な話し合いを行う。司会や発言は利用者が主に行い、対人関係・コミュニケーションの練習や利用者同士の相互理解の場として活用する。

②レクリエーション

利用者ミーティングでの話し合いをもとに実行する。レクリエーションに参加しない利用者の活動を保障するために、可能な限り、作業と同時並行で行う。

③クローバー（ピア活動）

利用者の自主活動のため、会の進行や運営は参加利用者が行う。ただし、状況に応じて職員の介入や支援が必要な場合は、必要な範囲で行う。

④誕生日会

利用者がデザートメニューを決め、誕生日会を行う。皆で祝うことが利用者の喜びや励みになり、通所のモチベーションへと繋がっている。

⑤交流行事

希望利用者を募り、法人全体の交流行事に参加する。普段、関わりが少ない利用者・職員との交流や、外部事業所を知るきっかけとなり、利用者にとっては楽しみを満喫すると同時に生活の幅をひろげることに繋がっている。

⑥プチハッピー

毎月、その月の「ミッション（目標）」を設定し、全項目を達成することにより「プチハッピー」なこと（豪華なおやつなどがもらえる等）が起こり、この手法により社会性・規律性を養う。挨拶や片付け等をミッションとすると、日常的なことを意識して取り組む利用者が増えたため、効果はかなりみられたミッションは定期的に取り入れていく。

6. その他活動

①体調管理

- ・バイタルチェック

毎日の自主検温と月2回の体重、血圧測定を行い、健康管理を行う。

- ・健康診断

法人全体で実施する健康診断にて行う。

②送迎サービス

希望者を対象に送迎を行い、通所数の増加に繋げる。

③防災訓練

年2回以上、実施し、防災への意識の向上を目指す。

④見学、実習の受け入れ

依頼や状況に応じて受け入れを行う。

⑤研修

- ・各職員の職務に対応した研修を受ける。
- ・各分野での専門家を育成する体制を構築する為の研修に参加する。
- ・各種研修会に参加後施設内研修を行い、職員全員で情報を共有する。

⑥地域交流

- ・1階の喫茶部分を就労支援兼地域交流スペースとして活用していく。
- ・地域交流を目的としたイベント、物品販売等を定期的で開催する。

⑦移転について

- ・令和8年の移転に向けての準備・利用者への周知を計る

Ⅶ. 令和7年度 グループホームありんこの家(共同生活援助・短期入所)事業計画書

Ⅶ-1 共同生活援助 ありんこの家

1. はじめに
2. 基本方針
3. 重点取組内容
4. 職員体制
5. 活動プログラム
6. 利用者へのサービス
7. 防災・安全
8. 従業者の努力目標

1. はじめに

令和7年度は、定員7名に対し、7名の利用者でスタートする。利用者は「通所する事」を基本に、日常生活のサポートを受けながら共同生活を送り、地域での自立生活を目指す。

2. 基本方針

関係法令等に基づき、共同生活援助事業を実施する中で、利用者の意思や人格を尊重し、本人らしい自立と社会参加を促進する個別支援計画を作成し、豊かで実りある生活に向けた支援とサービスを提供する。

3. 重点取組内容

① 利用者権利擁護

- ・利用者一人ひとりの要望を積極的に聴取し利用者自身が幸せを実感できるよう取り組む
- ・虐待防止・身体拘束等に関する研修を行い、職員の意識向上を図り利用者の方々の人権を守る。

② 職員間の連携

- ・職員間（サービス管理責任者・生活支援員・世話人）の情報共有と意識統一を図り、連携して支援を行うことで、利用者が安心して生活が送れるよう取り組む。

③ 地域交流

- ・生活範囲の地域行事や地域資源の情報を収集、利用者に提供し地域交流と社会参加を進める。

④ 人材育成

- ・外部の研修や事業所内部研修を実施し利用者への支援技術の向上・サービスの質的向上を図る。

4. 職員体制

管理者1名（常勤・兼務）・サービス管理責任者1名（非常勤・専従）・生活支援員3名（非常勤3名・専従）・世話人5名（非常勤5名・専従）

5. 活動プログラム

- ①サービス等利用計画に基づく個別支援計画の策定、本人、家族等からの聞き取り調査の実施、必要に応じて関係機関と連携、調整を行う。
- ②日々様子を観察するとともに、ケース記録の管理を行い必要に応じて世話人との会議を開催し日常生活における支援等を適切に遂行する。

6. 利用者へのサービス

①個別支援計画作成の支援

日頃のコミュニケーション及び相談を重視し利用者と相互信頼関係を構築し生活の質向上に向けた支援を目的とした個別支援計画を作成する。

②家事等の日常生活上の支援

- ③食事提供及び食事・入浴・排泄等の介助・支援（朝食300円・昼食400円（休所日）・

夕食 500 円)

- ④健康管理の支援（定期受診・ワクチン接種・抗原検査・毎朝の検温・通所前の血圧測定）
- ⑤金銭管理の援助
- ⑥日常生活における相談支援
- ⑦その他必要な手続き（行政・医療機関・移動支援手配等）
- ⑧余暇活動の支援

7. 防災・安全

- ①防災計画の立案、防災訓練、防火設備点検を実施。
- ②消防署と連携し防災について高い意識を持つ。
- ③非難経路を確保するために整理整頓を心がける。

8. 従業員の努力目標

- ①従業員行動基準を遵守し、利用者の豊かな自己実現に向けての支援を行う。
- ②障害者虐待の定義や身体拘束禁止の知識を習得し虐待防止に求められる視点を高める。
- ③利用者個々の障害特性に応じた適切な配慮をおこない、利用者が安心して暮らせるよう必要な支援を行う。
- ④家族、地域、及び各機関との信頼関係を醸成する。

VII-2 短期入所ありんこの家

1. はじめに
2. 基本方針
3. 利用定員
4. 職員体制
5. 利用者への支援内容
6. 利用対象者
7. その他

1.はじめに

介護者の疾病そのほか緊急時や休息などの場合に短期入所を必要とする利用者に対してのサポートを行い、利用者の生活が安心安全に維持できるよう努める。

事業の実施に当たっては地域との結びつきを重視し関係市町村、地域の保健・医療・福祉サービスとの綿密な連携を図り総合的なサービスの提供に努めるものとする。

2.基本方針

事業所の職員は常に利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立ちサービスの提供を行う。

3.利用定員 3名

4.職員体制

管理者 1名・生活支援員 1名（非常勤 1名）
嘱託医（東広島記念病院・康成病院）

5.利用者への支援内容

- ・介護者の疾病そのほか緊急時に在宅での介護が困難な時や介護者の休息など場合に利用者を短期間入所させ、入浴、排せつ、食事の介護その他必要な支援を行い、利用者の生活が安心安全に維持できるよう努める。

6.利用対象者

知的障害者、精神障害者等

7. その他

利用者の受入については、法人内事業所（黒瀬ありんこ・相談支援ありんこ）と連携を図り対応する。

VIII. 令和7年度 相談支援事業所ありんこ 事業計画書

1. はじめに
2. 基本方針
3. 指定特定相談事業(計画相談支援)
4. 指定一般相談事業(地域移行支援)
5. 指定障害児相談支援

VIII. 相談支援事業所ありんこ

1. はじめに

利用者ニーズの多様化、新しい福祉サービスの創設や煩雑な手続き等により、他分野との連携が重要となる。そのため、法人全体や他法人との連携を強化し、利用者支援を行う。

2. 基本方針

(1) 基本方針

利用者がその有する能力及び適性に応じ、自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、保健、医療、福祉、就労支援、教育等の関係機関との緊密な連携を図りつつ、相談支援事業を当該利用者の意向、適性、障害の特性その他の事情に応じ、適切かつ効果的に行う。

また、事業の実施にあたっては、利用者の意思及び人格を尊重し、常に当該利用者の立場に立ったサービスの提供に努め、提供する支援の自己評価を行い、常にその改善を図る。

(2) 実施事業

①指定特定相談事業（計画相談支援）

②指定一般相談支援事業（地域移行支援）

③指定障害児相談支援事業

(3) 通常の事業実施地域

東広島市黒瀬町

(4) 営業日・時間

営業日 法人の年間開所予定日による

営業時間 8：30～17：15

(5) 職員配置

管理者 1名（兼務）

相談支援専門員 2名（専任1名・兼任1名）

3. 指定特定相談事業（計画相談支援）

(1) 内容

①サービス利用支援

利用者やその家族等の来所による面接又は訪問を行い、心身の状況や生活環境を把握し、適切な保健、医療、福祉、就労、教育等に係るサービス等が総合的かつ効率的に提供されるよう配慮したサービス等利用計画を作成する。

②継続サービス利用支援（モニタリング等）

利用者やその家族等とサービス等利用計画に記載の通りの各事業のサービスが提供されているか、経過について確認し、把握する。また、各事業のサービス計画の目標に沿ってサービスが提供されるよう、事業者等との連絡調整を行う。

③各事業のサービス等利用計画の変更

利用者やその家族等がサービス等利用計画の変更を希望した場合、又は事業者がサービス等利用

計画の変更が必要と判断した場合は、利用者と事業者双方の合意に基づき、サービス等利用計画を変更する。

④その他

相談支援に付帯するその他必要な支援を行う。

(2) 対象者

障害者（障害の特定はしない）

4. 指定一般相談事業（地域移行支援）

(1) 内容

障害者支援施設や精神科病院等にいる障害者が、地域生活に移行するための活動に関する相談やその他の支援を行う。

①地域移行支援計画の作成

②入所施設や精神科病院への訪問による利用者に対する相談及び援助

③障害福祉サービス事業の体験的な利用等に係る必要な支援

④1人暮らしに向けた体験的な宿泊に係る支援

(2) 対象者

障害者（障害の特定はしない）

5. 指定障害児相談支援事業

(1) 内容

①サービス利用支援

利用者やその家族等の来所による面接又は訪問を行い、心身の状況や生活環境を把握し、適切な保健、医療、福祉、就労、教育等に係るサービス等が総合的かつ効率的に提供されるよう配慮したサービス等利用計画を作成する。

②継続サービス利用支援（モニタリング等）

利用者やその家族等とサービス等利用計画に記載の通りの各事業のサービスが提供されているか、経過を確認し、把握する。また、各事業のサービス計画の目標に沿ってサービスが提供されるよう、事業者等との連絡調整を行う。

③各事業のサービス等利用計画の変更

利用者やその家族等がサービス等利用計画の変更を希望した場合、又は事業者がサービス等利用計画の変更が必要と判断した場合は、利用者と事業者双方の合意に基づき、サービス等利用計画を変更する。

④その他

相談支援に付帯するその他必要な支援を行う。

(2) 対象者

障害児（障害の特定はしない）

